特集 埼玉県自動車販売

新型車効果を維持して

県内ディーラー さらに販促策強化

地域密着、社会貢献 選ばれる企業に

埼玉県の新車販売は県内の各ディーラーの活発な販促活動により、2026年度上期（4~9月）の新車販売台数では、前年同期比5・3%増の12万1373台で3年ぶりに前年を上回る状況となった。下期に向けても県内各社では、さらなる販促活動の充実を図り、販売台数の伸長を目指している。

埼玉県内の26年度上期の新車販売台数における登録車は同9・4%増の8万4467台。一方で、軽自動車は同2・0%減の4万906台となった。

伸長基調の新車市場



昨年の「埼玉県モビリティフェア」のもよう

26年度上期は、登録車の新型車市場投入モデルが比較的多かったことも販売台数伸長につながっているようだ。日産では主力モデルとなる車種が発売になり、新型車効果による販売伸長が目立っている。日産陣営では、「新型車の販売効果をどのように持続させることができるか」がカギになっているようだ。また、トヨタ陣営では、「アルファード」や「ノア」「ヴォクシー」といった人気車種の生産が強化されたことで、今後の販売戦略のために営業スタッフの教育・育成を図ろうとする動きもみられる。

イベントも活用して需要創出

その一方で、県内の各販売店が目指す地域密着の販売店づくりに向けた取り組みも活発化している。トヨタカローラ埼玉（TCS）では、少年野球大会の冠スポンサーを務めるほか今月22日の上尾市民マラソンへの先導車スポンサーも務める。

☆トピックス☆

トヨタカローラ埼玉

2店舗を複合 北本BASE オープン

トヨタカローラ埼玉（茂木喜嗣社長）は7日、関東最大規模を誇る「北本BASE」を新設した。同施設内に「TCS北本」と「GRガレージ北本BASE」が複合した施設として新設し、運営を開始した。



新店舗は、埼玉県内における交通の大動脈である国道17号に面し、総敷地面積は3950平方㍍で関東地区において最大規模を誇る施設として開設。同施設内に「TCS北本」と「GRガレージ北本BASE」が複合した店舗の建物面積は1818平方㍍の鉄骨造り2階建て。

また、新店舗は中庭を囲むように内部でつながっており、店舗内の往来が可能となっている。来店客に店舗内を自由に見て体感してもらう機会を増やすことで認知向上も図る。

・5年後の車両代金の一部を残価として据え置くことで、月々の支払い金額を安価に抑え、新車購入の敷居を下げて新車の代替えを働きかけやすくする工夫をしている。また、お客さまの車に対する要望などを細かくヒアリングし、的確にニーズをくみ取ることで、最良の提案内容をまとめているという。

こうした店舗における活動の下地は、森田チーフがこれまでの営業活動で磨き上げたもの。店舗で共有して生かすことで、営業責任者として店舗販売実績などの伸長につなげている。今後の同店舗と森田チーフの活躍が、会社全体の躍進につながるとして、同社では期待を寄せている。

埼玉ダイハツ 川口東店

新車販売時のワンクレ好調

利用率 8割に迫る

埼玉ダイハツ（小林幸彦社長）川口東店（川端昭彦店長）では、ワンダフルクレジット（ワンクレ・残価設定型ローン）を利用した好調な新車販売が続いている。

同店舗では、今年4月から10月末までの新車販売におけるワンクレ利用率が77・4%となっており、同社でもトップの成績を走り続けている。この利用率を下支えするのが営業を束ねる森田隼生チーフの積極的な営業活動である。

同店舗では、お客さまに最適なカーライフを提供するために、さまざまな提案活動を展開している。その中でも新車販売時ワンクレを利用した購入を積極的に勧めている。昨今の物価高に加えて収入が伸び悩む状況がある中で、お客さまの手元資金を残しつつ3年後



ワンクレ利用率8割に迫る実績を上げる川口東店のスタッフ

は、埼玉県自動車販売店協会（茂木喜明会長）主催の「埼玉県モビリティフェア2026」が開催される。例年国内外の人気車種が集結するイベントで、昨年に続き多くの来場者を見込んでいる。年末から年度末に向けた需要創出につなげるためにも県民の消費マインドを刺激したいところだ。

目指し、人が集まる場所にしたいとしている。サービス工場のストール数は9（TCS北本6、GRガレージ北本BASE3、検査ラインを含む）、工場内にはエアコンを導入して出入り口に高速シートシャッターを設け、冷暖房完備とした。人員は深澤宏彰ブロック長以下、TCS北本30人、GRガレージ北本BASEが5人の計35人体制。

オープンに先立ち5日に開いたセレモニーには茂木社長をはじめ三宮幸雄北本市長も出席した。茂木社長は「社員一丸となって新たな挑戦をしたい」とあいさつ。三宮市長は「完成が待ち遠しかった」などと述べた。その後、関係者らでテープカットを実施した。

若年層対象 広く車と触れる機会

埼玉運輸支局 手塚 雅司支局長



埼玉県における保有車両数は、2026年8月末時点で約416万台、対前年比0・4%増となっております。

また、埼玉県の26年8月におけるワンストップサービス（OSS）申請の利用状況は、新車新規登録79・41%、継続検査76・12%と着実に利用が進んでいます。

自動車整備業界では、自動車整備士不足が喫緊の課題となっています。これを受け、最重要事項として自動車整備士に特化した取り組みを強化していきます。これまで実施してまいりました県内高校訪問による整備業界のPR活動などは継続実施いたします。

こうした従来の活動に加え、将来に向けた人材確保のために、子どもとその保護者に向けた自動車整備士の魅力を発信する活動が重要となります。10月には、熊谷市の熊谷自動車検査登録事務所構内で埼玉県自動車整備振興会主催の「キッズあつまれ！自動車点検まつりIN KUMAGAYA」が開催され、多くの家族連れでにぎわいました。

さらに、11、12月に深谷市岡部地区における小学校4校の児童を対象に自動車整備士体験教室を開催します。より若年層を対象に車への関心と興味を持ってもらうための取り組みとして実施いたします。また、体験会会場までは埼玉工業大学の協力で自動運転が可能なバスに乗車してもらい、未来の自動車技術に触れる機会創出にもつなげます。こうした活動を通じて将来自動車整備士を職業選択肢の一つとしてもらえる取り組みにしてまいります。

人材確保 高校訪問も引き続き

当支局としましては、自動車業界がさらに魅力ある業界に発展していくように、当支局と関係者の皆さまとの連携を密にし、さまざまな課題や問題の解決に向けた取り組みを推し進めてまいります。引き続き、ご理解ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



START YOUR IMPOSSIBLE TOYOTA
発進・加速はゆるやかに。エコドライブに心がけよう。
bZ4X
ただの移動手段ではない
人と地球に寄り添うパートナー
GO BEYOND ZERO
TCS トヨタカローラ埼玉
本社　〒362−0083　埼玉県上尾市壱丁目南4−1
お客様相談テレフォン
0120-86-5941
携帯・PHS OK
ホームページアドレス
https://www.corolla-saitama.jp